



津波被害の復旧に向け、早急な対策をしていきます



豊間根信議員

かき小屋

かき小屋支援効果と今後の展望

新たな展開を目指して支援

質問 観光協会が開設し、町が積極的に支援したかき小屋は、大好評で大変喜ばしいことである。目指したPR効果と今後の展開は。

沼崎町長 マスコミなども取り上げられ、予想を上回る人数が訪れている。大沢養殖研究会が併設した直売所も好評であり、町とし

ても新たな展開を目指して出来る限りの助言・支援をしていく。

質問 2月28日のチリ地震津波により養殖漁家の皆さんが非常に大きな被害を被った。生産能力回復へ向けて、早急に全面的支援をしなければならぬ。かき小屋にも影響が大きいと考

えるが対応策は。

宇澤産業振興課長 今後、

調査が進み実態が把握できると思うが、特に浜川目地区が大きな被害を受けた。漁協とも十分に協議し早急な対策をしていく。かき小屋の力キは織笠産を使用しており、今のところは被害が少ないと聞いている。

財務行政

人件費など削減し堅実な財政運営を

これからも行政経費の抑制に努める

質問 施政方針において、「政府方針に沿って自らの権限と責任において規律をもった財政運営を行い、人件費、一般行政経費の抑制を図り、堅実な運営を目指す」ということであるが具体的な対応策は。

沼崎町長 毎年度、当初予算編成方針で経常的経費の削減目標を示し、全職員に周知徹底し縮減に努めている。人件費の抑制については、定員適正化計画により職員減員を進めている。今後も事務事業の改善・合理化・定員適正化の実行により行政経費の抑制に努めていきたい。

質問 定員削減は、限界までできているのではないか。町民の平均所得向上のため産業振興に力を注いでいるが、町民の所得の格差は正も視野に入れ、職員給与削減を決断する時にきているのではないか。

沼崎町長 現時点では、プライマリバランスも含めて考えても、職員給与削減のような緊急的な措置をしなければならぬ状況ではないと思っている。現在の法制度で定められたシステムの中での給与であるので、緊急性をもって削減という認識はない。

町の考えを聞く